

報知旗争奪 第11回日本少年野球 関西キッズドリーム大会

大会規定

新型コロナウイルス感染防止ガイドライン厳守の事

- 1 チームの選手登録は9名以上、25名以内とする。
- 2 出場選手は連盟登録済みの者に限る。
- 3 審査証は令和4年度発行のものとする。
- 4 登録選手及び登録された責任者(代表または、それに代わる責任あるもので、チーム登録書証を携帯しているもの)・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入りことができる。
【本大会においてのみ、責任者証が複数必要な場合はその写しを携帯することも可とする】
選手は、令和4年度連盟所属、関西ブロックの登録チームで連盟に選手登録した小学4年生～2年生の選手(但し、1年生のベンチ入りは認める)
- 5 決勝トーナメントは、組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチとし、試合前にジャンケンにて先攻後攻を決める。またリーグ戦では不公平のないよう下記のように定める。
※第一試合・若番号が一塁側とし先攻とする。
※第二試合・若番号が三塁側とし後攻とする。
※第三試合・若番号が三塁側とし先攻とする。
- 6 監督(背番号60)・コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用する。
【本大会で合同チームを結成した場合のみ、異ユニホームも可とする。また、合同チームを結成した各チームから必ず一人は、指導者としてベンチにはいりこと。】
- 7 試合開始時間60分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表5部を大会本部に提出しなければならない。
- 8 所定の審査を受けたのち両キャプテンにより、決勝トーナメントは先攻、後攻をジャンケンで決める。(予選リーグは対戦表のとおり先攻、後攻とする)
- 9 試合開始時間までにチームがグラウンドに現れないとき、審判は没収試合を宣言することができる。
- 10 試合方式など
今大会は、塁間を21.86m・バッテリー間を14.367mとして試合を行う。
予選、4グループ各チーム2試合を行い、各グループの1位チーム(勝ち点方式)の計4チームが決勝トーナメント戦に進み試合を行う。
①各試合は5回戦で行い、3回終了をもって正式試合とする。
②試合成立後は開始から1時間20分を超えた場合、新しいイニングに入らない。
また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能になった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決める。
試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
降雨などの規定・サスペンデッドの規定は連盟規定に準ずる。
3回終了以降12点差、4回終了以降7点の場合はコールドゲームとする。
③1イニングに12点を取った時点でアウトカウントに関係なく、攻守交代とする。
④予選リーグは、5回終了後、同点の場合は引き分けとする。
◎順位決定方式
(ア)予選リーグ戦は勝ち点制とする。勝ち「2点」、引き分け「1点」(両チーム)、負け「0点」
勝ち点と同じ場合は、「失点数(少)」次に「得点数(多)」で上位を決定するが、同等なら「二試合での攻撃回数の少ないチームを優先」し、なおも同じ場合は「代表者による抽選」とする。
上記(ア)をもって出場チームの順位を決定し、上位4チームが決勝トーナメントへ進出する。
⑤決勝トーナメントの場合は延長戦に入るが、延長6回(決勝戦は7回)あるいは試合開始から1時間20分を越えては(どちらか早い方)新しいイニング二入らず、タイブレーク方式を実施する。
【競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照】

- 11 (1) 投手は一日50球とし、2日間の連投は禁止する。
(2) 打者の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了まで投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にはカウントしない。
(3) ボークは投球数に加算しない。
(4) 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- 12 攻撃で監督およびコーチの指示は、伝達は1試合で各2回の計4回以内とする。延長に入った場合は、1回の指示、伝達は認める。(選手の怪我や交代などは回数をカウントしない)
守備側の選手に対する指示、伝達が3回になれば、自動的に投手は交代になり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
内野手が投手の処に行くタイムは禁止。また、指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」ととする。
- 13 監督、コーチ及び選手は、審判のジャッジに対し、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。
ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが、審判に説明を求めることができる。。この場合「3分以内」に規制する。
- 14 監督、コーチが選手にアドバイスするときは、ピッチャーマウンドのところで行う。
- 15 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 16 ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 17 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用の牽制球を繰り返したり、送球する真似を何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
【今大会で基本的にはボークは取らないが、あまりにもひどい時は、審判員が注意して指導する。
この間にランナーなどがアウトになった場合はそれを無効とする】この件に関する抗議は認めない。
- 18 ヘルメットは1チーム7個同色で安全なものを備える。但し合同チームは別。
- 19 ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限定。
- 20 捕手は、必ずヘルメット並びに規定防具を試合および練習を問わず着用すること。
- 21 グランドの都合で大会トーナメント規定が別に設定された場合は、それに従うこと。
- 22 ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 23 光化学スモック発生の場合、試合並びに選手に対する処置は別に定め、運営委員の指示に従う。

【タイブレーク実施細則】

- (1) 延長回に対する特別規制
 - (イ) 決勝トーナメントは延長6回
 - (ロ) 打者は前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。
 - (ハ) この場合の打者は前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者が三塁走者とする。
 - (ニ) この場合の代打及び代走は認める。
- (2) チーム及び個人成績
 - (イ) 投手成績
 - ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
 - ・完全試合は認めない。
 - ・無安打、無得点試合は認める。
 - (ロ) 打撃成績
 - ・規定により出塁した3走者の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
 - ・規定により出塁した3走者を絡めて打点、併殺打などは全て記録する。